

Lesson 4 Build-up 1

A 現在完了形 <have[has] + 過去分詞>

過去を今の状況とつなげて、「どういういきさつを経て、今、どうなっているのか」を一気に表現する形。従って、現在完了形が用いられている場合、その内容は、「今の状況」とかかわりを持っていることになる。

1. I have just heard the news.

私はちょうどその知らせを聞いたところだ。

完了・結果「～してしまったところだ」「～してしまった（今も・・・だ）」

やっていたことをやり終えて、その結果、今どういう状況になっているかを示す。

2. I have met Judy's brother twice.

私はジュディーのお兄さんに2度会ったことがある。経験「～したことがある」

ある行為を今までに何回したかを表現するものなので、before（以前に）、never（1度も～ない）、ever（「疑問文で」今までに）、often（しばしば）、once（1度）、twice（2度）、many times（何度も）のような、回数や頻度を表す副詞（句）を伴うのがふつう。

3. She has lived in Paris for three years.

彼女はパリに3年間住んでいる。状態の継続「ずっと～である」状態動詞を用いる

状態動詞はもともと同じ状態が継続する意味合いを含んでいる。そこで、このような動詞を現在完了形にすれば、ある状態が過去のある時点から現在まで続いてきたことを表すことになる。

B 現在完了進行形 <have[has] been + doing>

4. He has been watching TV since this morning.

彼は今朝からずっとテレビを見続けている。

動作の継続「ずっと～し続けている」動作動詞を用いる。

現在完了進行形は「動作が進行中」ということに注目する表現である。今もその動作が進行中であることももちろんありうるが、動作が進行中であった場合にも使われる。つまり継続していた動作自体は終わったものの、その動作の余韻が今でも色濃く残っているときにも使われるのである。たいていの場合、動作が終了したのは少し前のことである。

Build-up 2

A 過去完了形 <had + 過去分詞>

過去のある時点から今までをつなげて考えるのが現在完了形である。それに対して過去完了形は「過去のある時点」と「その時以前」をつなげて考える。

1. The party had already started when we arrived.

私たちが到着した時、パーティーはすでに始まっていた。

過去のある時点までの完了・結果 「～して（しまつて）いた」

この文では「when we arrived.」という過去の時点に視点が置かれている。「私たちが到着した時」からそれ以前を振り返って「どういういきさつを経て、その時に至ったか」を説明する。

2. I had never seen an opera until I visited Italy.

私はイタリアを訪れるまで、オペラを見たことがなかった。 経験「～したことがあった」

この文では「I visited Italy.」という時点に視点が置かれている。「イタリアを訪れた時」からそれ以前を振り返って「オペラを見たことがない」という「経験」を表すために過去完了形を用いている。回数や頻度を表す副詞の「never」が使われていることも確認する。

3. She had lived in Paris for three years before she came to Japan.

彼女は日本に来る前に、パリに3年間住んでいた。

状態の継続「ずっと～だった」 状態動詞を用いる。

この文では「she came to Japan.」という時点に視点が置かれている。「日本に来た時」からそれ以前を振り返って、「どれくらいのあいだパリに住んでいたのか」を説明している。期間を表す「for three years」が使われていることも確認する。

B 過去完了進行形<had been + doing>

4. We had been playing soccer for an hour when it started to rain.

雨が降り出した時には、私たちは1時間（ずっと）サッカーをしていた。

過去のある時点までの動作の継続 「ずっと～し続けていた」 動作動詞を用いる。

この文では「it started to rain.」という時点に視点が置かれている。「雨が降り出した時」からそれ以前を振り返って、「それまで1時間（ずっと）サッカーをし続けていた」ことを説明している。過去完了進行形は動作の進行に注目するので、「動作が進行中であつた」場合に使われる。現在完了進行形の時と同様、継続していた動作自体は少し前に終わったものの、その動作の「余韻」がその時点で色濃く残っている時にも使われる。

C 過去の時間的な前後関係を表す（大過去）

5. I heard that Fred had returned to Canada.

フレッドはカナダに帰ったと聞きました。 大過去：先に起こった出来事を過去完了形にする。

過去に起こった2つの出来事について、実際に起こった順序とは逆の順序で述べる場合、時間的に前に起こった出来事を過去完了形にする。この文ではフレッドがカナダに帰ったのは、私が聞いた時よりも前のことであるが、英文では先に「heard」があるため、「帰った（戻った）」を「had returned」と過去完了形にして、2つの出来事の時間的な前後関係を明確にしている。

D 未来完了形<will have + 過去分詞>

未来完了形は、未来のある時の 1 点の状況を、それ以前とつなげて予測する時に用いる。未来のある 1 点に目を向けている点以外は、現在完了形と同じように考えれば良い。

6. The party will have started by the time we arrive.

私たちが着くまでに、パーティーは始まっているだろう。

未来のある時点までの完了・結果 「～して（しまつて）いるだろう」

この文では「by the time we arrive.」が未来のある時の 1 点を表している。「私たちが到着する時間の時点ですべてどうなっているか」を、その時点までに何があったかを踏まえて予測するので「will have started」が用いられている。「start（始まる）」という動詞の性質や、「by ～（～までには）」の働きから、ここでは「完了・結果」を表していることがわかる。

7. I'll have seen the movie three times if I see it again.

その映画をもう一度見れば、私はそれを 3 回見たことになる。

経験「～したことになるだろう」

この文では「if I see it again.」が未来のある時の 1 点を表している。「will have seen the movie three times」で「もう 1 回見た段階で、何回見たことになるか」を予測している。また「three times（3 回）」とあることから「経験」を表していることがわかる。

8. They will have been married for 20 years next year.

彼らは来年で結婚して 20 年になる。

状態の継続「ずっと～していることになるだろう」

この文では「next year」が、未来のある時の 1 点を表している。「will have been married」で「来年で何年間結婚していることになるか」を予測している。「be married」が状態を表すことと、期間を表す「for 20 years」から、ここでは「継続」を表していることがわかる。